



【証券コード：9651】

日本プロセス株式会社 決算説明会

2021年5月期



2021年7月16日

1. 2021年5月期 連結決算について

2. 第5次中期経営計画振り返り

3. 第6次中期経営計画基本方針（22年5月期～24年5月期）

4. 2022年5月期重点取組みテーマ

5. 2022年5月期 数値計画

1. 2021年5月期 連結決算について

2. 第5次中期経営計画振り返り

3. 第6次中期経営計画基本方針（22年5月期～24年5月期）

4. 2022年5月期重点取組みテーマ

5. 2022年5月期 数値計画

2021年5月期 連結決算の概況

単位：百万円

	期首 計画	計画 対比	実績	前年 対比	前年
売上高	7,430	+213 +2.9%	7,643	▲127 ▲1.6%	7,770
営業利益 (利益率)	570 (7.7%)	+131 +23.1%	701 (9.2%)	▲26 ▲3.6%	727 (9.4%)
経常利益 (利益率)	665 (9.0%)	+138 +20.8%	803 (10.5%)	+17 +2.3%	785 (10.1%)
当期純利益 (利益率)	445 (6.0%)	+99 +22.3%	544 (7.1%)	▲14 ▲2.6%	558 (7.2%)

売上高

前年対比：▲127百万円（▲1.6%）

自動車、産業がコロナで苦戦、制御が交通システムを拡大し、期首計画は超過

営業利益

前年対比：▲26百万円（▲3.6%）

プロジェクト管理の強化による生産性向上や、経費削減による

経常利益

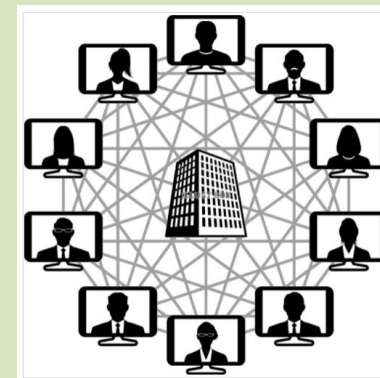
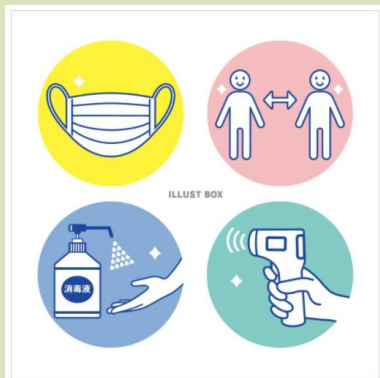
前年対比：+17百万円（+2.3%）

保険解約返戻金による

当期純利益

前年対比：▲14百万円（▲2.6%）

法人税及び法人税等調整額による



- ① 社員や家族、ステークホルダーの健康第一に、リモートワークやオンライン化、3密防止等のコロナ対策を徹底
- ② 人材育成を計画的に実施（AUTOSAR、A-SPICE、AI/DL、Azure、英会話など）
- ③ アルゴリズム研究所を21年6月1日に統合

④株主への還元

1円増配し27円

⑤社員への還元

業績連動賞与は4期連続最高額を更新

コロナ禍での予算達成により特別手当を支給

⑥CSRの一環として、税引後利益の1%を目途に

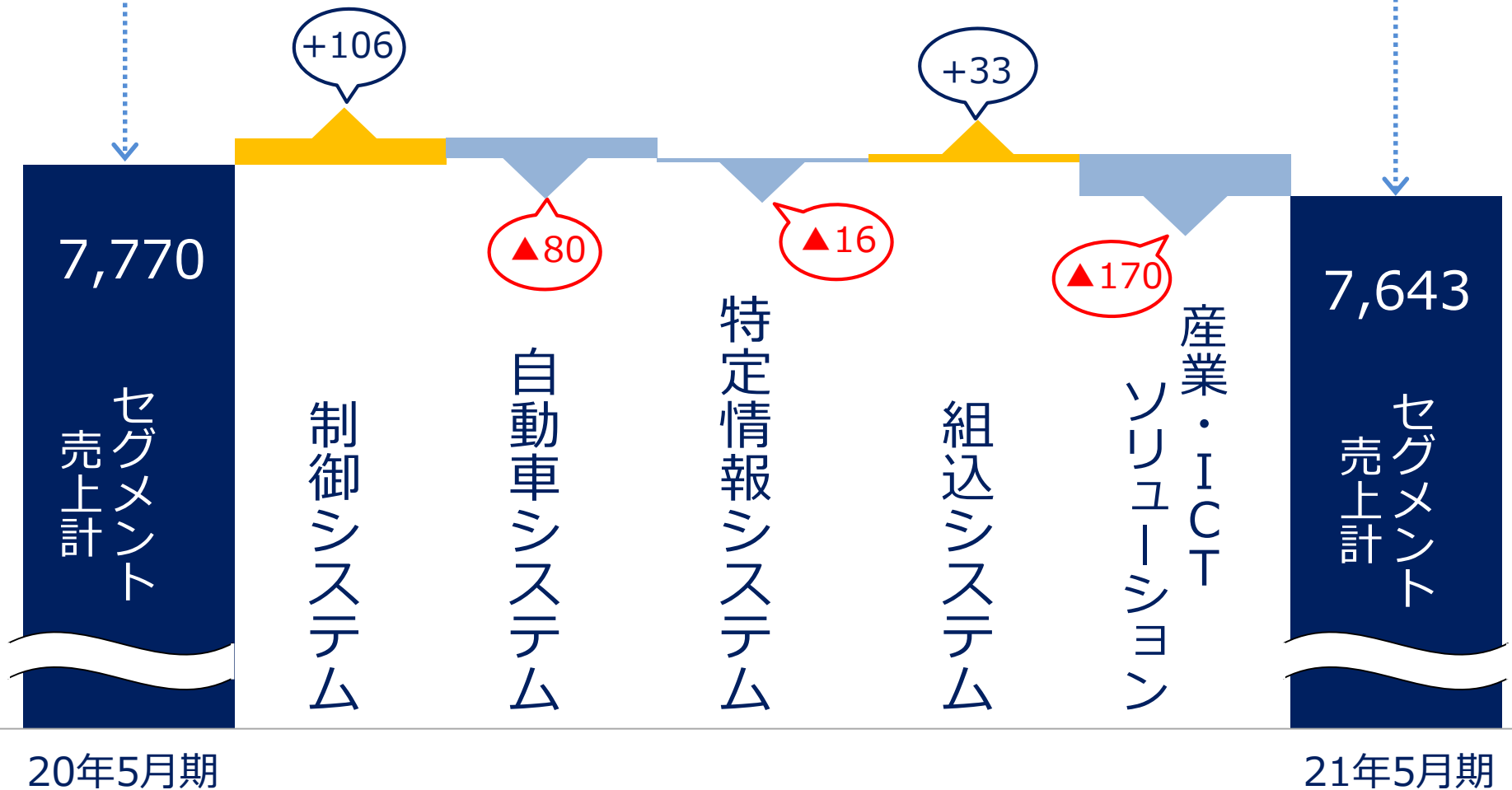
2団体への寄付を継続

- ・公益財団法人 SBI子ども希望財団
- ・特定非営利活動法人 Reach Alternatives

2021年5月期 セグメント別売上増減

単位：百万円

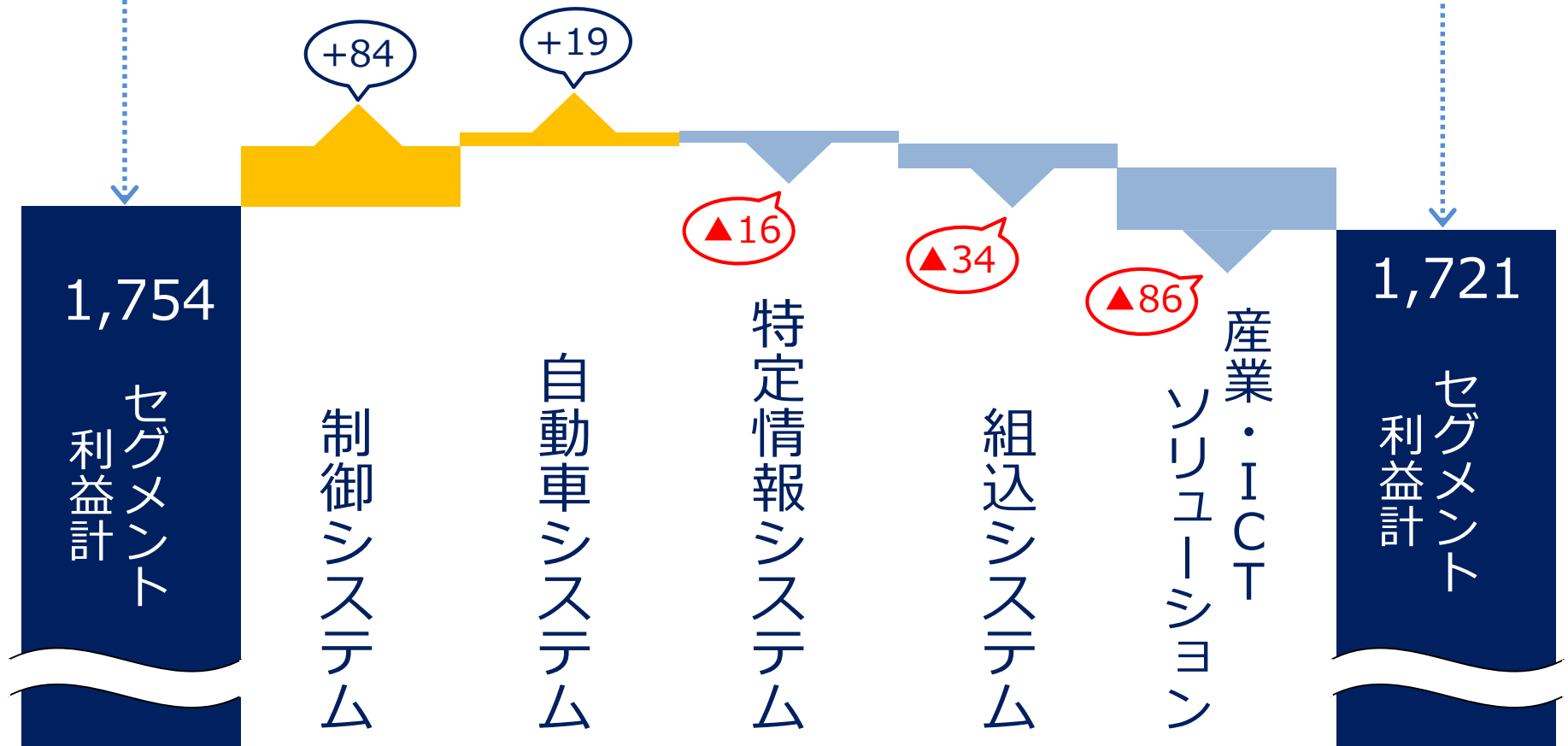
127百万円の減少 (前年同期比：▲1.6%)



2021年5月期 セグメント別利益増減

単位：百万円

33百万円の減少 (前年同期比：▲1.9%)



20年5月期

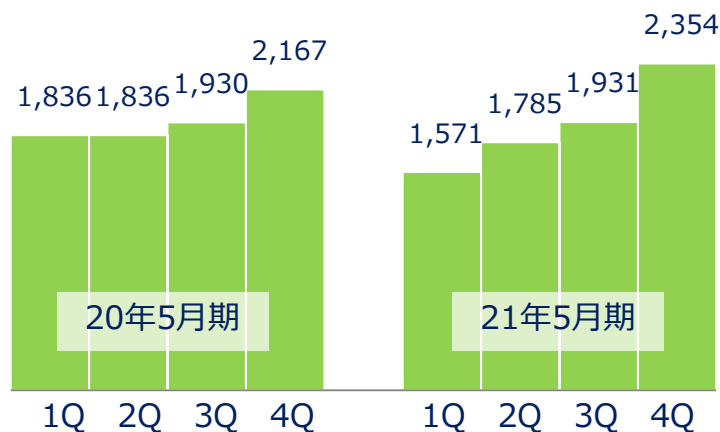
21年5月期

※セグメント利益には、各セグメントに配分していない全社費用は含まれていません。

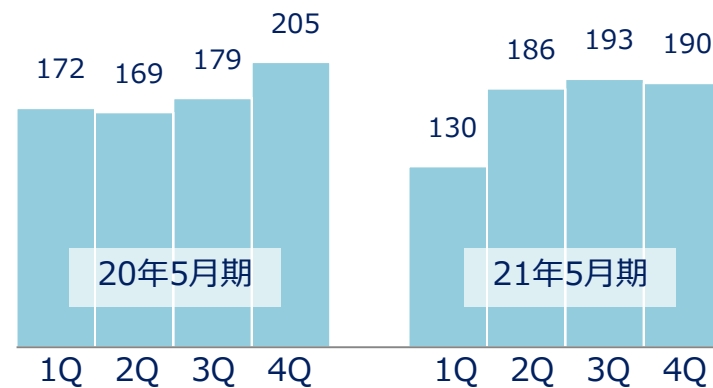
2021年5月期 連結決算の概況（四半期推移）

単位：百万円

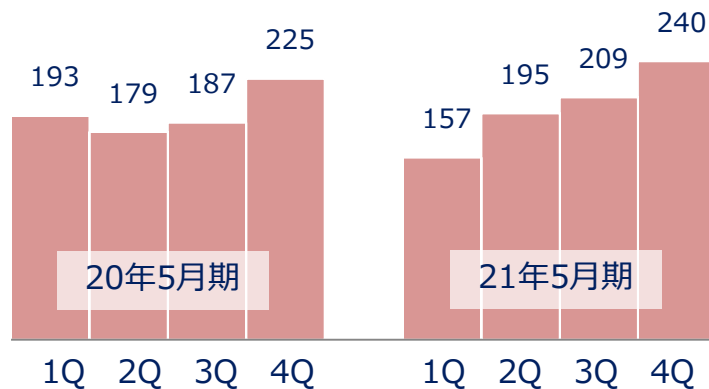
売上高



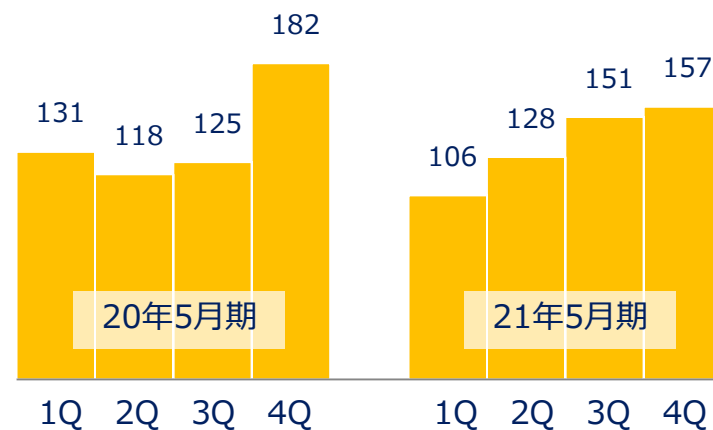
営業利益



経常利益



当期純利益



制御システム

- エネルギーは火力発電制御システムが堅調、交通は新幹線、海外高速鉄道が好調、ATOS、在来線が堅調
- プロジェクト管理強化で利益率向上
- IPD大連活用を継続

単位：百万円

セグメント		20年5月期 (利益率)	21年5月期 (利益率)	増 減 (増減率)
制 御 シ ス テ ム	売上	1,344	1,451	+106 (+7.9%)
	利益	317 (23.6%)	401 (27.7%)	+84 (+26.7%)

※セグメント利益には、各セグメントに配分していない全社費用は含まれていません。

自動車システム

- コロナの影響による開発計画の変更によりパワートレイン制御、IVIが苦戦
- AD/ADAS、車載NW、基盤ソフト、電動化は堅調
- IPD大連へのオフショアをパワートレイン制御で継続

*AD/ADAS：自動運転/先進運転支援システム

単位：百万円

セグメント		20年5月期 (利益率)	21年5月期 (利益率)	増 減 (増減率)
自動車システム	売上	1,887	1,806	▲80 (▲4.3%)
	利益	449 (23.8%)	469 (26.0%)	+19 (+4.4%)

※セグメント利益には、各セグメントに配分していない全社費用は含まれていません。

特定情報システム

- 危機管理は大型請負案件が試験フェーズに入り体制を縮小
- 画像認識/識別はAD/ADASで体制縮小もセキュリティの画像処理が拡大し、第2の柱に成長

単位：百万円

セグメント		20年5月期 (利益率)	21年5月期 (利益率)	増 減 (増減率)
特定情報システム	売上	699	682	▲16 (▲2.4%)
	利益	169 (24.2%)	153 (22.5%)	▲16 (▲9.4%)

※セグメント利益には、各セグメントに配分していない全社費用は含まれていません。

組込システム

- SSDの他、新たなNAND応用製品を受注し堅調、新ストレージ開発は横ばい
- IoT建設機械は堅調で第2の柱に成長、医療は横ばい
- 追加人員の立上げで利益減

単位：百万円

セグメント		20年5月期 (利益率)	21年5月期 (利益率)	増 減 (増減率)
組込システム	売上	1,044	1,078	+33 (+3.2%)
	利益	254 (24.3%)	219 (20.3%)	▲34 (▲13.6%)

※セグメント利益には、各セグメントに配分していない全社費用は含まれていません。

産業・ICTソリューション

- クラウドシステム構築は、システム開発も受注し好調
- 航空宇宙、イメージングソリューションは横ばい
- 鉄道の駅務機器は端境期に加え、コロナの影響で減少

単位：百万円

セグメント		20年5月期 (利益率)	21年5月期 (利益率)	増 減 (増減率)
産業・ICT ソリューション	売上	2,794	2,624	▲170 (▲6.1%)
	利益	563 (20.2%)	476 (18.2%)	▲86 (▲15.4%)

※セグメント利益には、各セグメントに配分していない全社費用は含まれていません。

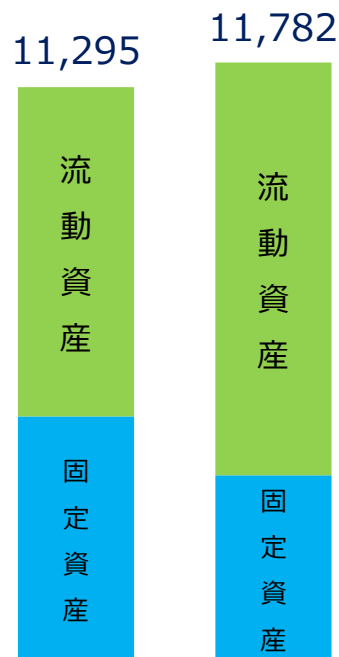
資産の部

負債/純資産の部

単位：百万円

資産：486百万円の増加

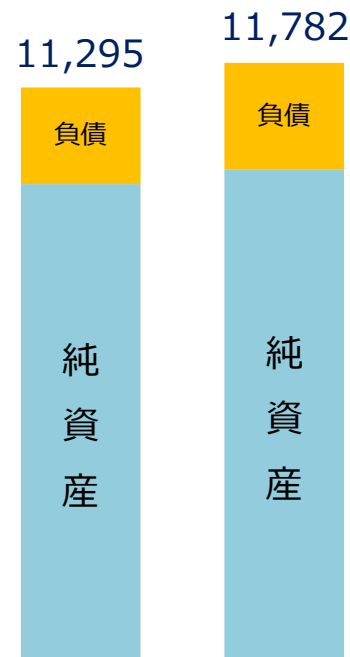
負債：207百万円の増加
純資産：279百万円の増加



－主な変動要因－

現金及び預金	+952
売上債権等	▲78
有価証券	+799
投資有価証券	▲1,109
保険積立金	▲60
繰延税金資産	+52

20年5月期末 21年5月期末



－主な変動要因－

未払金	+106
未払法人税等	+100
賞与引当金	+88
利益剰余金	+292
有価証券評価差額	▲48
自己株式	+12

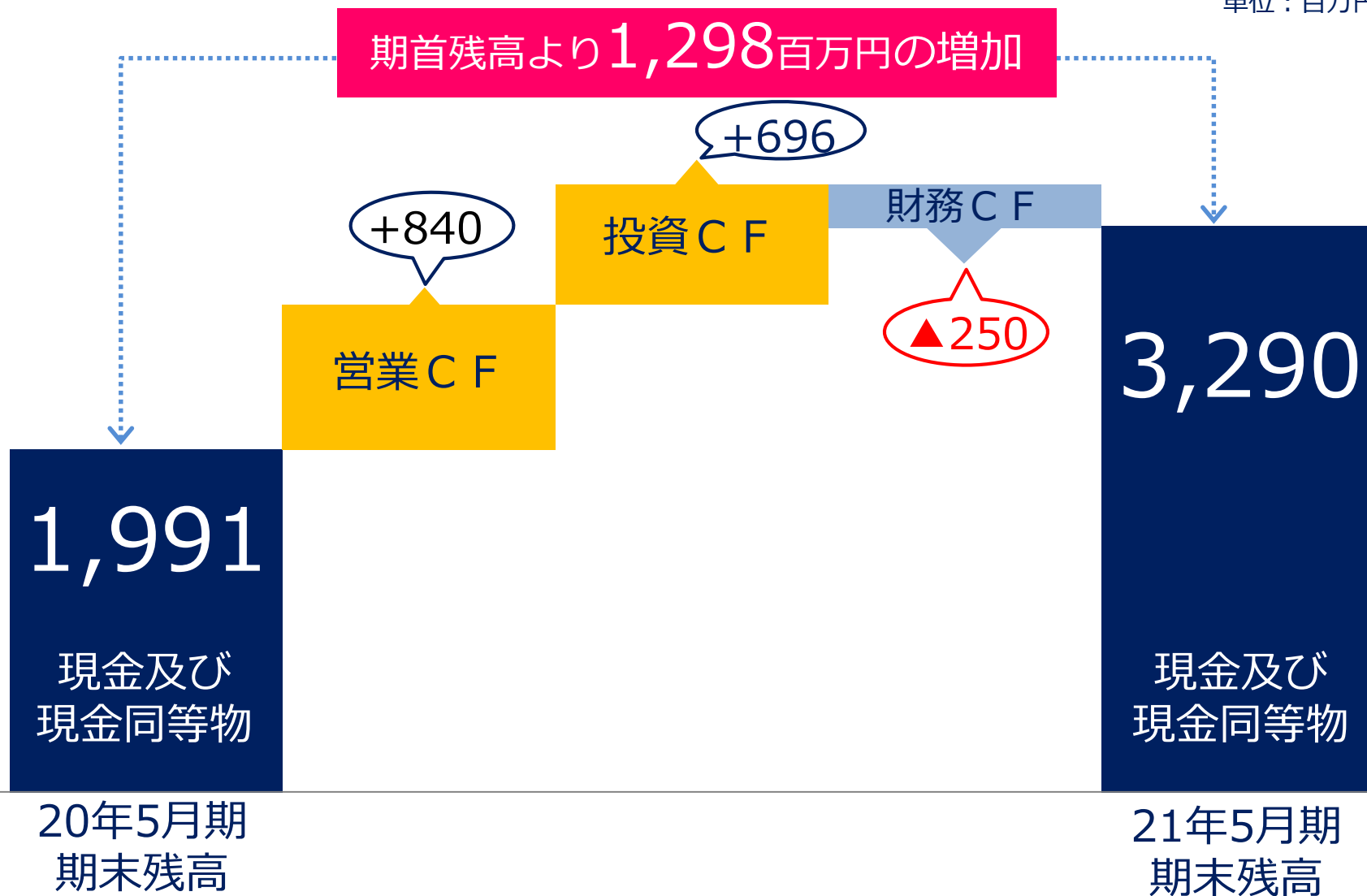
20年5月期末 21年5月期末

財務指標（その他）

	20年5月期	21年5月期
純資産額	9,396百万円	9,675百万円
1株当たり純資産	973.0円	999.9円
1株当たり当期純利益	57.4円	56.3円
自己資本比率	83.2%	82.1%
自己株式	988,048株	968,505株
従業員数	657人	676人

2021年5月期 連結キャッシュ・フローの状況

単位：百万円



※21年5月期期末残高は、為替変動による増加分11百万円を含んでおります。

1. 2021年5月期 連結決算について

2. 第5次中期経営計画振り返り

3. 第6次中期経営計画基本方針（22年5月期～24年5月期）

4. 2022年5月期重点取組みテーマ

5. 2022年5月期 数値計画

第5次中期経営ビジョン

ソフトウェアで
社会インフラ分野の安全・安心、快適・便利に貢献する。

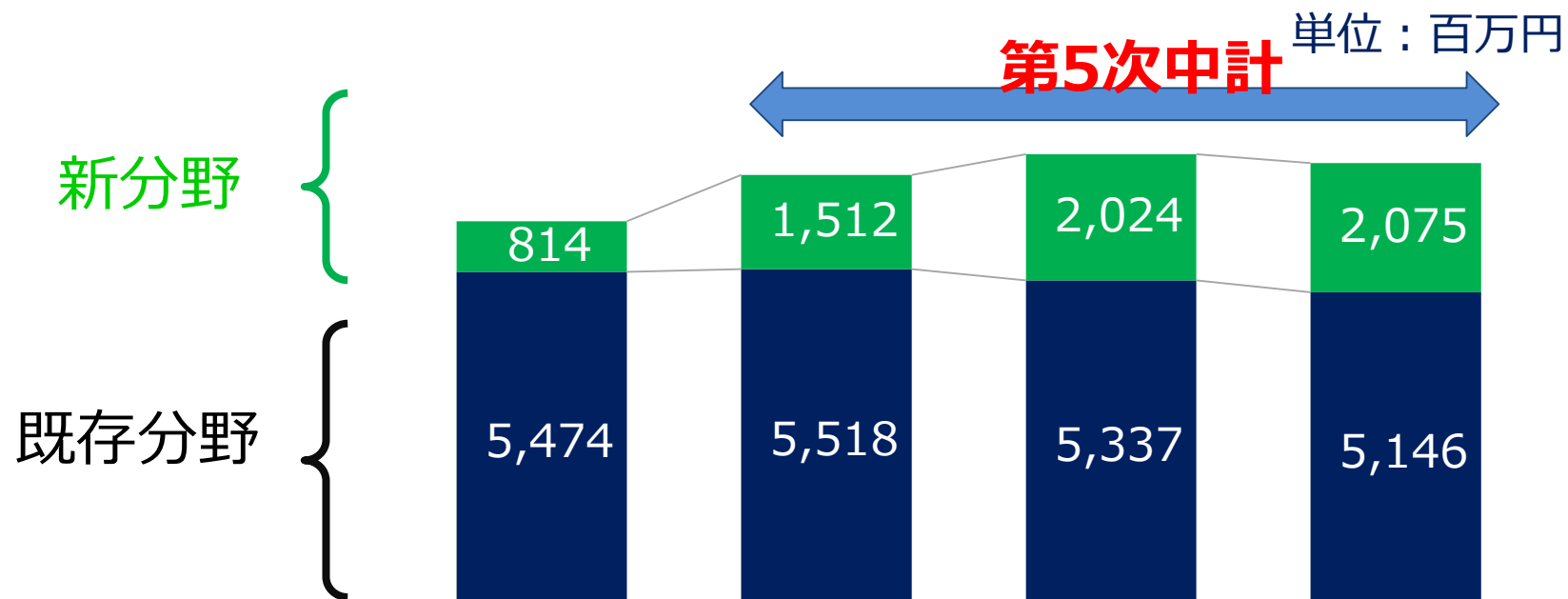
第5次中期経営計画 基本方針

1. 獲得事業の主力化と新分野の開拓
 - ① A D / A D A S、I o T を主力事業へ
 - ② A I、ネットワーク、セキュリティ、クラウド基盤等で、
更なる注力分野を開拓
2. 持続的成長への投資
3. T - S E S *₁の実現に励む

*1;トータル・ソフトウェア・エンジニアリング・サービス (JPDの造語)

1. 獲得事業の主力化と新分野の開拓 日本プロセス

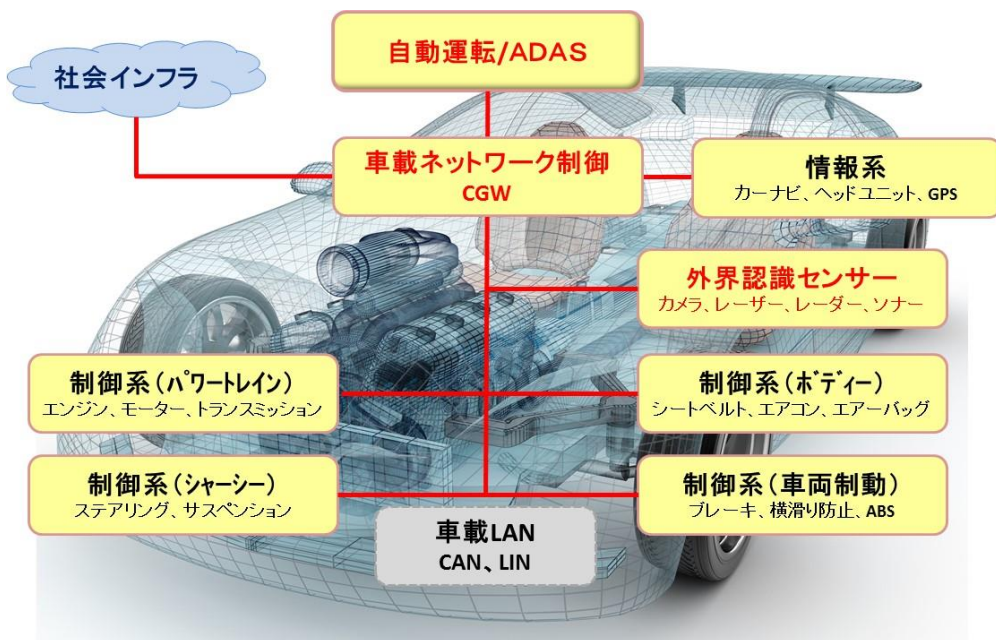
JAPAN PROCESS DEVELOPMENT CO., LTD.



売上高	18年5月期	19年5月期	20年5月期	21年5月期
全体	6,289	7,030	7,362	7,221
新分野	814	1,512	2,024	2,075
既存分野	5,474	5,518	5,337	5,146

1. 獲得事業の主力化と新分野の開拓 日本プロセス JAPAN PROCESS DEVELOPMENT CO., LTD.

1 AD/ADAS



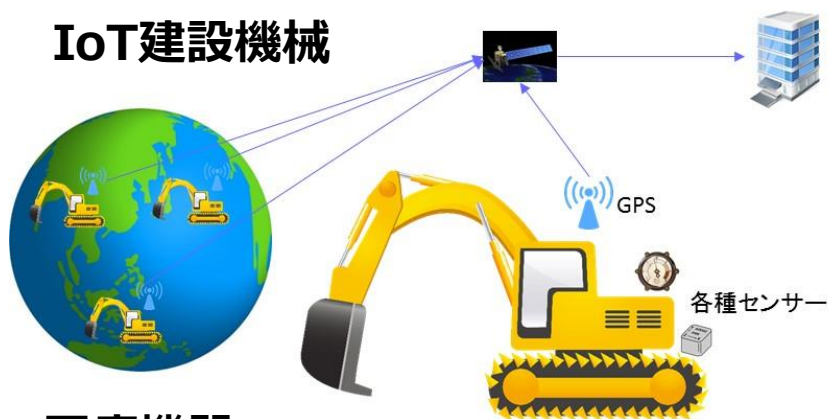
事業年度	中計成長率
19年5月期	100%
20年5月期	125%
21年5月期	134%

車載技術に組込や画像認識/識別技術を結集して
パワートレイン系やIVIに替わる主力事業へ成長

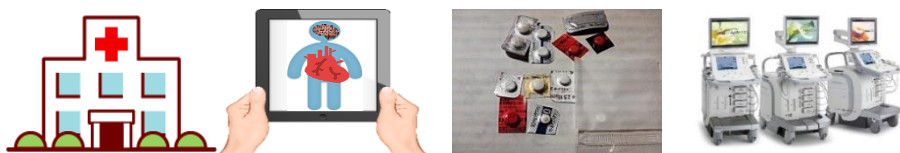
1. 獲得事業の主力化と新分野の開拓 日本プロセス JAPAN PROCESS DEVELOPMENT CO., LTD.

2 IoT/セキュリティ

IoT建設機械



医療機器



事業年度	中計成長率
19年5月期	100%
20年5月期	185%
21年5月期	221%

IoT建設機械が組込システムの第2の柱に成長

1. 獲得事業の主力化と新分野の開拓

3

AI/ロボティクス



事業年度	中計成長率
19年5月期	100%
20年5月期	91%
21年5月期	38%

コロナで案件減少、大型案件見えず
AI利用技術の習得は進み、新分野開拓や差別化へ

1. 獲得事業の主力化と新分野の開拓 日本プロセス JAPAN PROCESS DEVELOPMENT CO.,LTD.

4 クラウド/ネットワーク



事業年度	中計成長率
19年5月期	100%
20年5月期	220%
21年5月期	236%

カリキュラムを定めて技術者を計画的に育成、構築・運用から周辺システム開発へと大きく拡大

2. 持続的成長への投資①

(1) 職場環境の整備

- 本社、京浜事業所、横浜事業所 移転
日立事業所リノベーション、IPD大連増床

(2) 作業環境の整備

- 開発／管理用各種ツールの導入
- リモートワーク環境の整備

(3) 制度改革

- 裁量労働制廃止、年次有給休暇取得促進、
インターバル勤務試行、過重労働防止の徹底

2. 持続的成長への投資②

(4) 人材育成

- 制御分野OO開発、AI/DL、セキュリティ、A-SPICE、AUTOSAR、モデルベース開発、英会話等

(5) 新卒採用強化

	18年5月期	19年5月期	20年5月期	21年5月期
新卒	24人	22人	32人	37人

(6) ビジネスパートナー強化

- アルゴリズム研究所の連結子会社化および統合
- インドTrenser 社との業務資本提携

成長トレンド (JPD単体)

- ★ T - S E S への取組みの再構築
- ★ 次の中核ビジネスへの注力
 - I o T、自動車、環境・エネルギー
 - 顧客の海外展開に対応
 - 一分野複数顧客の継続
- ★ 人材への重点投資

第4次中計

★ 獲得事業の主力化と新分野の開拓

A D / A D A S、I o T を主力事業へ
A I、ネットワーク、セキュリティ、
クラウド基盤等で、更なる注力分野を開拓

★ 持続的成長への投資

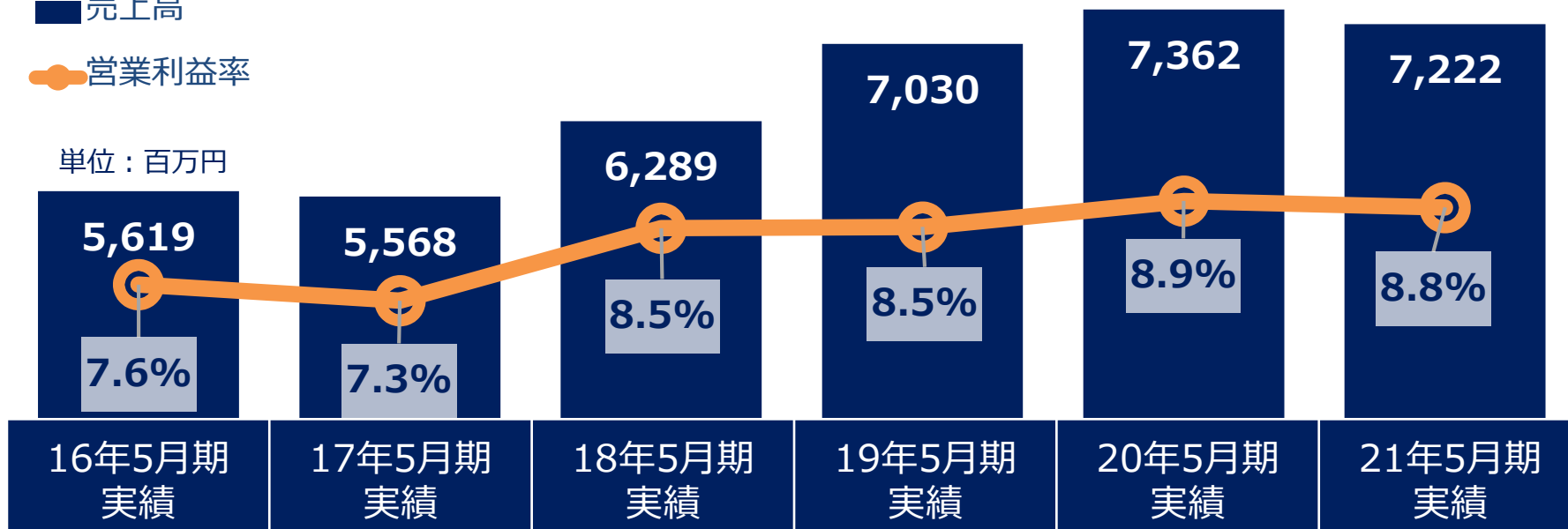
★ T - S E S の実現に励む

第5次中計

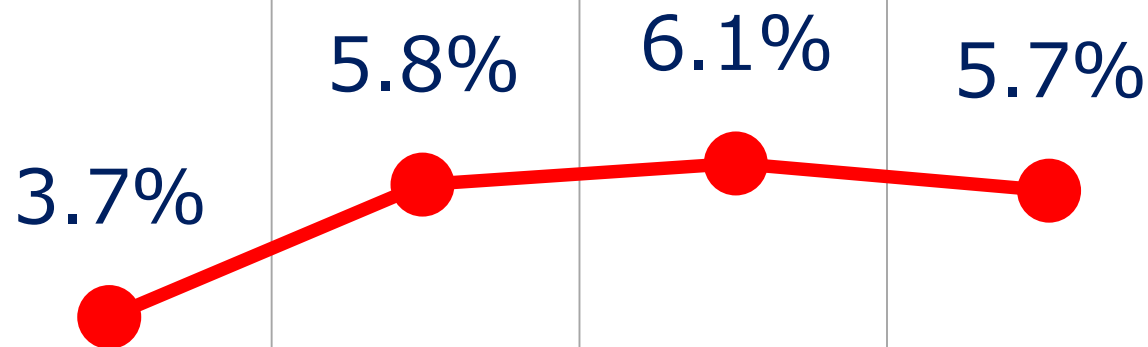
■ 売上高

● 営業利益率

単位：百万円



自己資本利益率（ROE）の推移



	18年5月期	19年5月期	20年5月期	21年5月期
1株当たり当期純利益(円)	31.9	51.1	57.4	56.3
1株当たり純資産(円)	866.5	896.6	973.0	999.9
当期純利益(百万円)	314	501	558	544
純資産額(百万円)	8,514	8,822	9,396	9,675

※17年12月1日を効力発生日とし、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行いました。
18年5月期の期首に株式分割が行われたと仮定し算定しております。

企業価値向上

★株主還元★

業績連動賞与

成果主義による評価

売上/利益
UP

社員への還元

生産性/品質/技術力

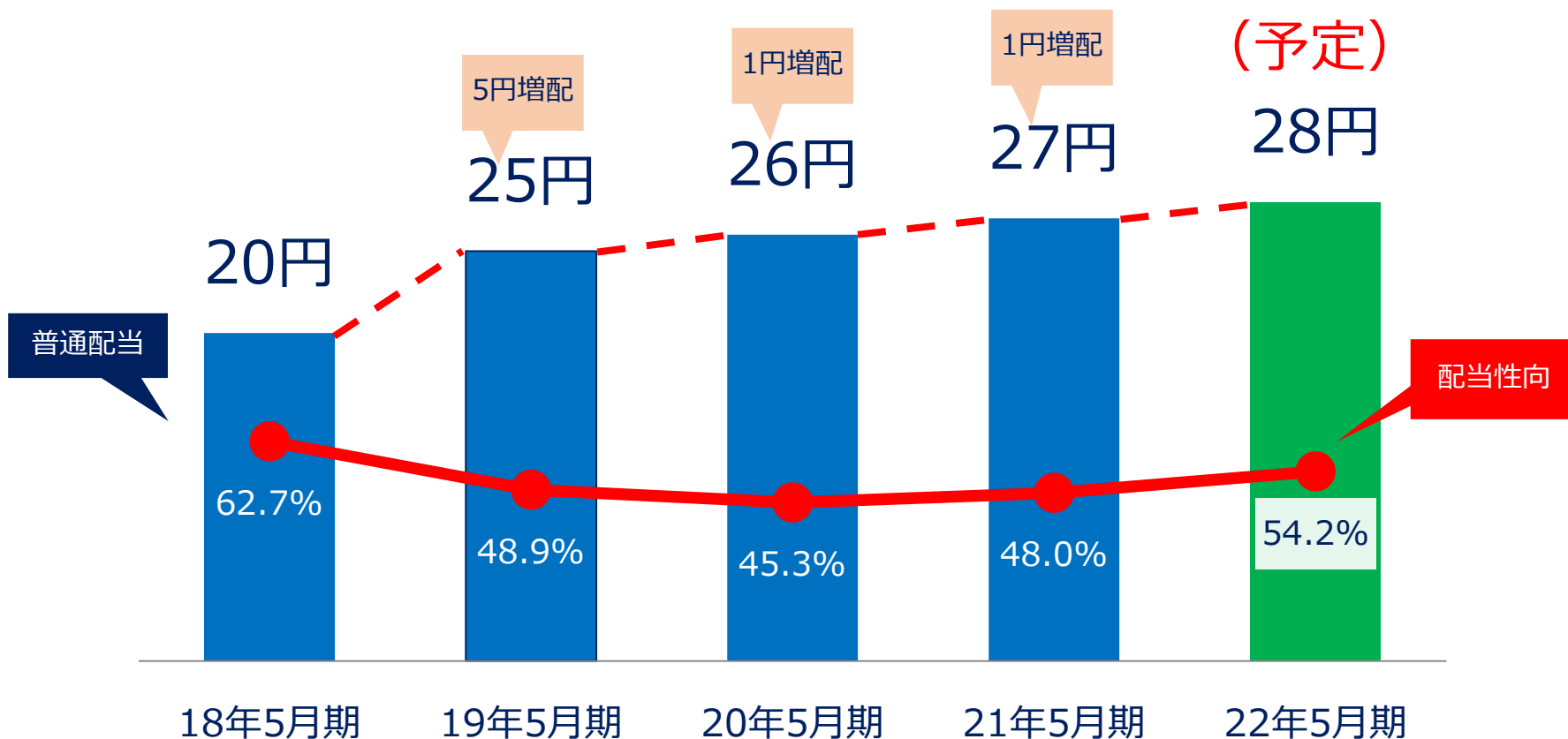
持続的成長
への投資

人材、働きやすい環境/制度、設備

配当方針

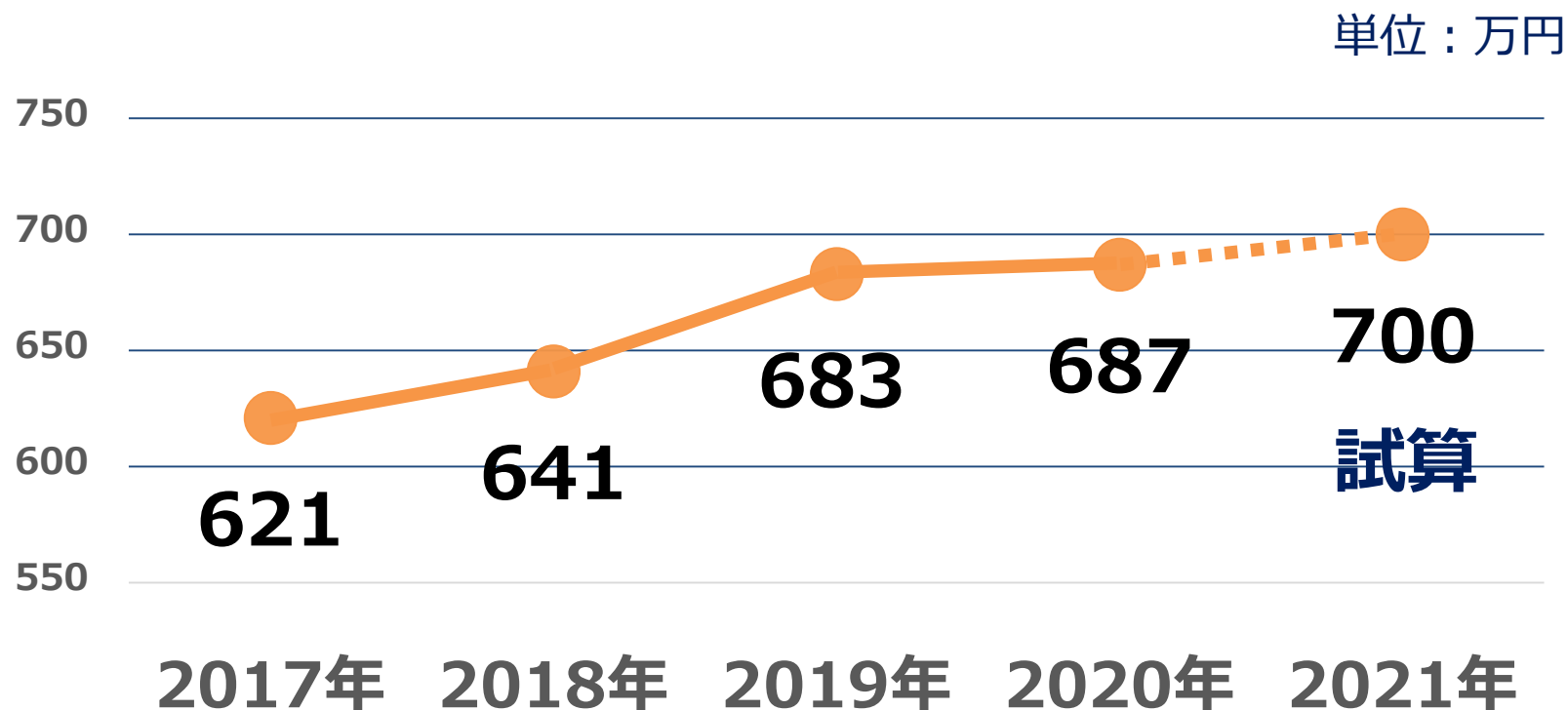
① 安定的配当の継続

② 配当性向概ね50%以上を目標



※17年12月1日を効力発生日とし、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行いました。
年間配当額は、18年5月期の期首に株式分割が行われたと仮定し算定しております。

平均年収の推移（社員への還元）



1. 2021年5月期 連結決算について

2. 第5次中期経営計画振り返り

3. 第6次中期経営計画基本方針（22年5月期～24年5月期）

4. 2022年5月期重点取組みテーマ

5. 2022年5月期 数値計画

中期経営ビジョン

ソフトウェアで
社会インフラ分野の安全・安心、快適・便利に貢献する。

第6次中期経営計画 基本方針

1. 人材育成のための大規模案件請負の推進
 - ①大規模案件受注に向けた営業力強化
 - ②新規設計力の向上
 - ③マネージメント力の向上
2. T-SESのトータル度向上

1. 人材育成のための大規模案件請負の推進

①大規模案件請負受注に向けた営業力強化

部門間の営業連携と本社の営業支援を強化し、大規模案件の請負を狙う。

②新規設計力の向上

大規模案件等で、新規設計する機会をより多く創出し、新規設計力の向上を図る。

③マネージメント力の向上

大規模案件等で、プロジェクトをマネージする機会をより多く創出し、マネージメント力の向上を図る。

2. T-SESのトータル度向上

長期的な取組であるT-SESのテーマとして、各分野でトータル度を向上し、顧客へのサービス価値を拡大する。

1. 2021年5月期 連結決算について

2. 第5次中期経営計画振り返り

3. 第6次中期経営計画基本方針（22年5月期～24年5月期）

4. 2022年5月期重点取組みテーマ

5. 2022年5月期 数値計画

制御システム

- ・ 大規模案件請負でマネージメント力向上、新規設計受注を狙う
- ・ 再生可能エネルギー、電力グリッド、Web-HMIを狙う
- ・ ATOSの新規開発装置、海外高速鉄道、AI運転整理を受注
- ・ 在来線運行管理はシステム一括受注によるT-SESを狙う

自動車システム

- ・ AD/ADASやIVIで担当範囲を拡大し、車種展開の一括受注や大規模案件請負受注を目指す
- ・ モデルベース開発を習得し、新規設計案件へチャレンジ
- ・ 次の成長分野の開拓としてCASE関連の車載通信やセキュリティ、クラスターメーター等を狙う

特定情報システム

- ・危機管理分野で、大規模案件を請負で受注し、新規設計力とマネージメント力の向上を狙う
- ・同分野でT-SESトータル度を向上
- ・画像認識/識別やAIのスキルを活かし、新規分野、新規顧客を開拓

組込システム

- ・コア技術（FW開発、HW制御）を武器に、IoTや医療機器などで新規顧客を開拓
- ・ストレージでは新製品開発や応用製品開発の受注を拡大
- ・IoTの既存分野は受注拡大と請負化を狙う

産業・ICTソリューション

- ・ 航空宇宙分野での大規模案件請負の受注を狙う
- ・ 構築・運用はクラウドや仮想化等の強みを活かし拡大を狙う
- ・ 鉄道子会社向けは支援業務からクラウド基盤やシステム開発へ展開
- ・ クラウド、画像処理、AI分野で技術者を育成、新規案件/新規顧客を開拓

1. 2021年5月期 連結決算について

2. 第5次中期経営計画振り返り

3. 第6次中期経営計画基本方針（22年5月期～24年5月期）

4. 2022年5月期重点取組みテーマ

5. 2022年5月期 数値計画

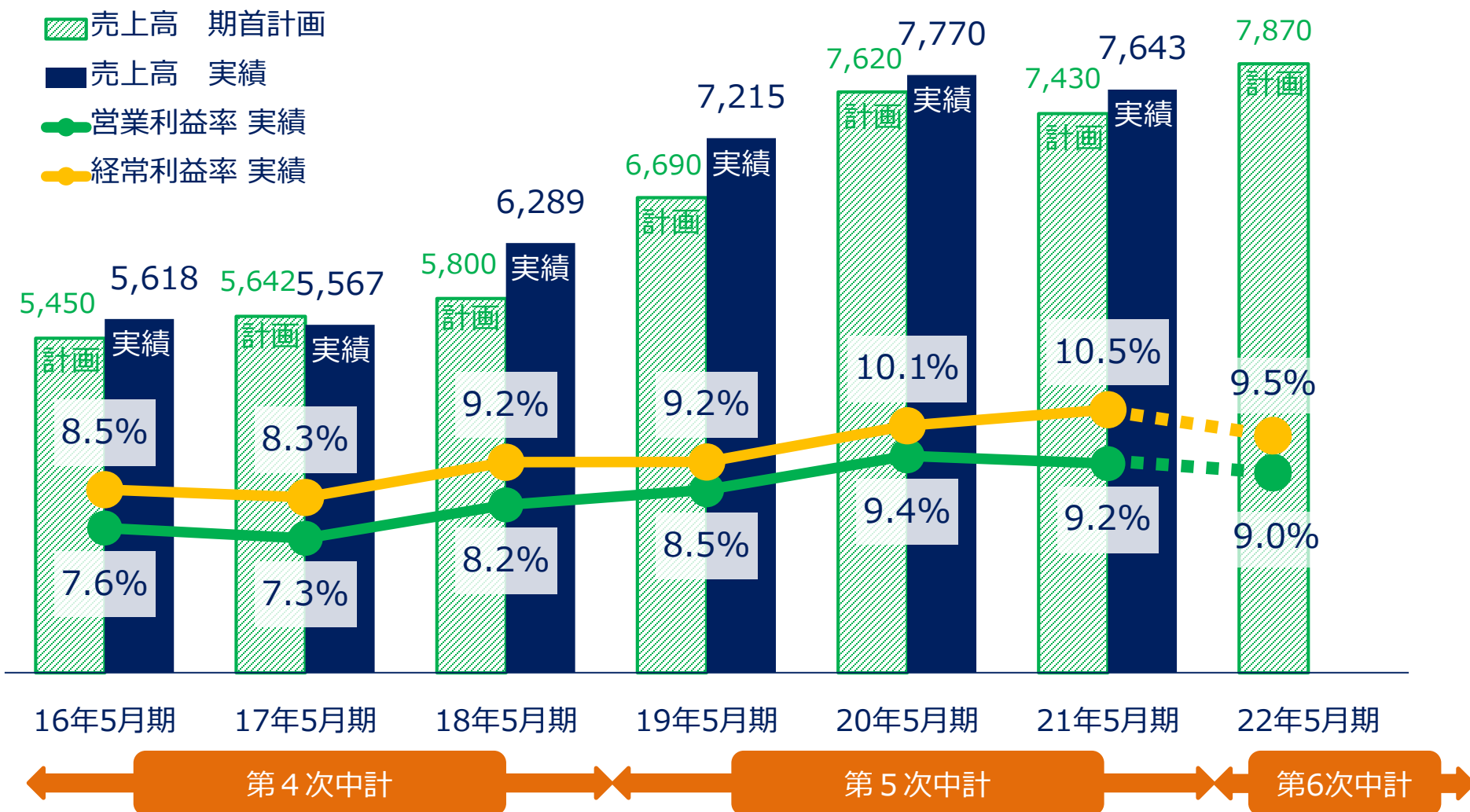
2022年5月期 連結数値計画

単位：百万円

	21年5月期 実績	22年5月期 見通し	増減額 (増減率)
売上高	7,643	7,870	+226 +3.0%
営業利益 (利益率)	701 (9.2%)	705 (9.0%)	+3 +0.5%
経常利益 (利益率)	803 (10.5%)	745 (9.5%)	▲58 ▲7.3%
当期純利益 (利益率)	544 (7.1%)	500 (6.4%)	▲44 ▲8.1%

連結数値の推移

単位：百万円



ソフトウェアで、
社会インフラ分野の安全・安心、快適・便利に貢献します

免責事項

本資料は作成時点での予測や仮説に基づく記述が含まれています。
これら将来の見通しに関する記述についてはその実現を保証するものではなく、
既知、未知のリスクや各種要因により実際の結果、業績と異なることがあります。

お問合せ

経営企画部 部長 米島英紀

keikibu@jpd.co.jp